



FORESTORY IN AKITA

秋田の林業

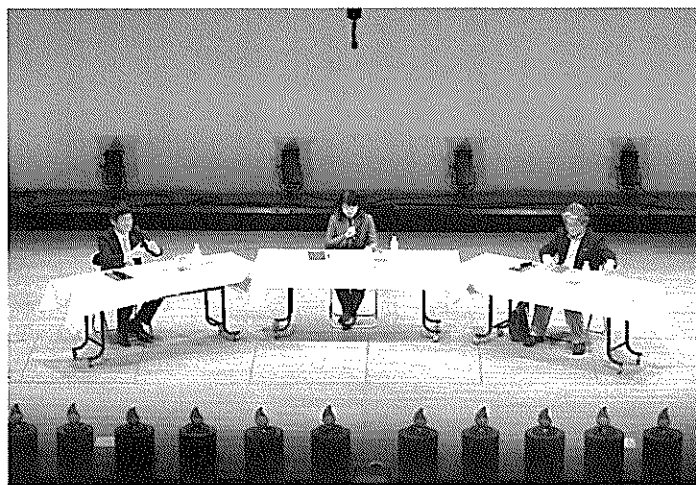
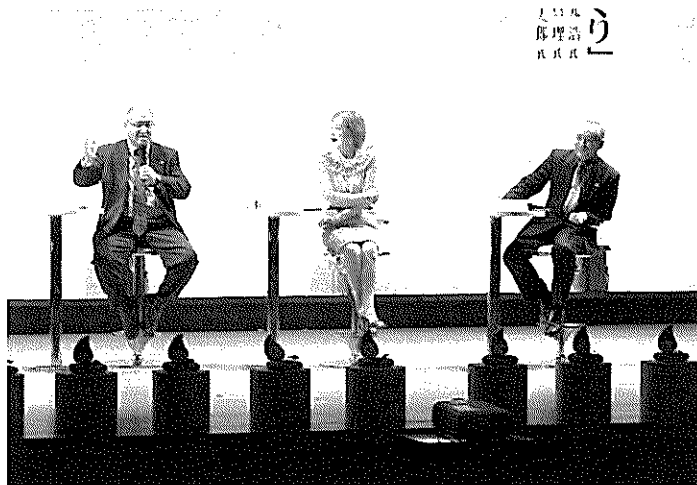
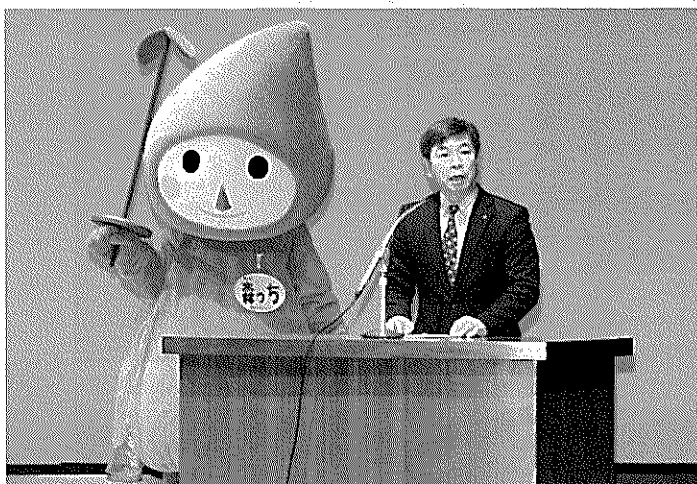
森林・林業・木材産業の月刊情報冊子

“森と木の国秋田”の情報を提供します

監修 秋田県農林水産部
昭和39年11月20日 第3種郵便物認可
平成23年12月1日発行
月1回1日発行 No.676

2011年国際森林年森づくりフォーラム（中央地区）が11月12日(土)秋田市で開催されました。このフォーラムは、国際森林年を契機として、森林環境の保全に向けた県民参加の森づくりへの理解が深められるようにとの目的で開催されたものです。

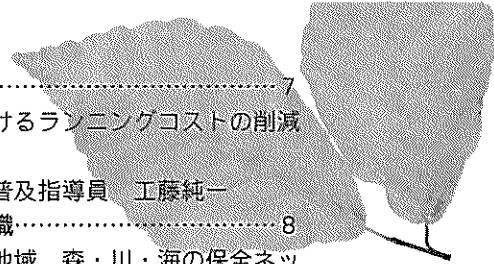
写真左から時計回りに①開会にあたり挨拶をする中野節副知事。②森づくり活動を発表する八峰町立水沢小学校の皆さん。③「秋田の森を歩く」をテーマに、登山家小松由佳氏、秋田の山の学校代表 藤原優太郎氏等によるトークショー④「山村と都市との交流による森づくり」をテーマとしたNPO 法人 MORIMORI ネットワーク副代表理事 芳村真理氏、仙北市長 門脇光浩氏、秋田森の会・風のハーモニー代表 佐藤清太郎氏によるトークショー。秋田の森に寄せる思いを熱く語りました。



も く じ

- 秋田を活かす施策・事業…………… 1
「秋田県もりづくりJ-VER ネットワークとは？」
秋田県農林水産部森林整備課
- ニュースフラッシュ…………… 4
あなたの自由な発想を生かした森づくり活動を応援
します！
- 現場の人紹介…………… 5
山一林業株式会社（北秋田市） 藤本英和さん
- 試験研究紹介…………… 6
伐採・造林連続実施による育林経費の削減に向けて
森林総合研究所林木育種センター育種課長 板島直榮

- 普及指導区から…………… 7
菌床シタケ栽培におけるランニングコストの削減
について
平鹿普及指導区 林業普及指導員 工藤純一
- 森と木の事業情報 & 新知識…………… 8
「2011国際森林年由利地域 森・川・海の保全ネッ
トワーク一斉行動」(松林健全化作業)
由利地域振興局農林部森づくり推進課 穴戸昭子
- MERKET（市況）…………… 9



（秋田を活かす施策・事業）

『秋田県もりづくり』

J-VERネットワークとは？

秋田県農林水産部 森林整備課

地球温暖化の防止や影響緩和に向けた取り組みが世界的に進められておりますが、環境省では地球温暖化対策としてJ-VER制度を平成20年末より開始しました。

この中で、森林吸収系のプロジェクトは、森林の間伐作業で増加する分のCO₂を正確に算出し、これをクレジットとしてCO₂削減に取り組み企業に販売する仕組みです。

これにより、企業は環境貢献企業としてイメージアップが図れ、クレジットを販売した事業者は収益をさらなる森林整備に活用できます。また、企業と事業者のつながりを通じた商品開発・販路拡大など、山村地域の再生・活性化も期待されます。

本制度は、地球温暖化防止とともに山村地域への新たな経済的価値

をもたらしことから、森林の豊富な本県でも注目され、平成22年より取り組みが始まり、今年12月現在の実施事業体は7自治体・3

森林組合で、合計11のプロジェクトに及んでいます。(表1)

また、これらのプロジェクトから今年度中に発行されるクレジットは約25,000tのCO₂が見込まれていますが、今後はクレジットの販売促進が重要となります。

1「秋田県もりづくりJ-VERネットワーク」について

クレジットを販売する事業者は、プロジェクトの創出から販売まで一連のストーリー性をもたせ、この取り組みの社会的効果について、分かりやすい形で企業に説明できなければなりません。

各事業者は地域の特性を生かし、

企業や地域にとって魅力あるクレジットであるということを訴えて販売していくこととなります。

一方、県内の森林吸収系プロジェクト件数は全国上位にあり、また、本県は全国有数のスキの生産地ということもあり、県内の取り組み事業者が一体となって県内外の企業にPRすることも必要でないかという声が上がりました。

このため、環境省事業の一環として「秋田県もりづくりJ-VERネットワーク」(以下「ネットワーク」という。)を立ち上げ、チーム秋田としてJ-VER制度の普及及び秋田県産クレジットの販売促進を行うことにしました。

ネットワークの会員は表2のとおりであり、県内のプロジェクト事業者の他、県内企業・団体、首都圏の事業者も含まれており、クレジットの作り手からプロバイダー、商品開発者が一同に介した構成となっています。

(1) 協議会の実施

ネットワークでは協議会を年3回開催することとしており、これまで2回開催されていますが、そ

の内容は次のとおりです。

① 第1回目協議会

8月3日に県庁の会議室で開催されました。

はじめに、事務局より東京で行われた「買い手座談会」及び「プロバイダー座談会」の内容で買い手側は何を求めているのかの話がありました。

これを踏まえて、ネットワークの今年度方針を次のように決定しました。

- ポスターの作成
- ホームページの開設

○首都圏等で開催されるマッチングイベント(売り手と買い手が一同に会する・環境省が主催)への参加

○県内のイベントでのPR

また、カーボンフリーコンサルテング株式会社より「排出量取引とJ-VER」と題して研修をうけ基礎知識を学びました。

② 第2回協議会

10月13日に八峰町の白神体験センターで開催しました。

大阪で開催されたマッチングイベントに参加した八峰町の担

表1 秋田県内における森林吸収関係（間伐促進型）J-VERの取り組み

H23.12.1現在

プロジェクト名	事業者名	間伐面積 (ha)	CO ₂ 吸収量 (見込み) (t-CO ₂)	備考
白神山麓・八峰町有林 J-VERプロジェクト	八峰町	295	3,477	発行済み
北秋田地域振興事業における 上小阿仁J-VERプロジェクト	グリーンプラス株式会社 大館北秋田森林組合	28	420	発行済み
秋田杉 森林吸収J-VERプロジェクト	秋田市	103	1,472	発行済み
秋田県県有林J-VERプロジェクト	秋田県	34	331	発行済み
曲げわっぱと忠犬ハチ公の故郷 大館市有林J-VERプロジェクト	大館市	103	2,141	—
秋田県三種町有林森林 CO ₂ 吸収 J- VER 事業 ～じゅんさい栽培の水源と里山を守る プロジェクト～	グリーンプラス株式会社 三種町	124	3,354	—
大館北秋田間伐促進事業「つばね東北！ 震災復興支援プロジェクト	グリーンプラス株式会社 大館北秋田森林組合	221	4,204	発行済み
秋田県雄物川源流域東成瀬村仙人郷の 森 CO ₂ 吸収事業 ～ホテルの楽園とおいしい湧水を守る 地域振興間伐促進プロジェクト～	グリーンプラス株式会社 雄勝広域森林組合	408	5,322	—
秋田市 森林吸収 J-VER プロジェク ト PART 2	秋田市	161	1,291	—
北秋田市森林吸収事業 ～生物多様性保全絶滅危惧種クマゲラ のふるさと森のプロジェクト～	グリーンプラス株式会社 北秋田市	237	2,667	—
横手市・森林組合森林吸収共同プロジェ クト	横手市森林組合	214	979	—
合 計			25,658	

当者より報告がありました。

また、ネットワーク会員による販売演習を行い、問題点を抽出するなど、実践に即した取り組みも行われました。

最後に、「J-VER販売におけるマーケティング視点について」と題してグリーンプラス株式会社より講義をいただき、会員のマーケティングに対する意識の向上を図りました。

第3回目の協議会は来年1月に県庁で開催予定です。

(2) マッチングイベントへの参加
ネットワークでは、秋田産のクレジットを企業に売り込むため、環境省で主催するマッチングイベントに参加することにしており、これまでに大阪（9月13開催）と名古屋（11月21日開催）で開催されたイベントに参加しました。

大阪では、ネットワーク参加者が2名と少なかったため、ブース来場者への対応が手薄になってしまいました。このため、名古屋ではネットワークの参加者を7名に増やし、また、ブースも各市町村のポスターや間伐材製品を展示し

表2 秋田県もりづくりJ-VER ネットワーク加盟団体

H23. 12. 1 現在

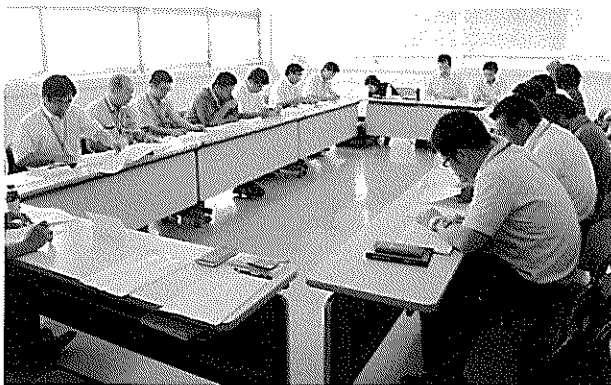
加盟団体	種類	役職	備考
大館市	事業者		
北秋田市	事業者		
秋田市	事業者		
八峰町	事業者	副会長	
三種町	事業者		
大館北秋田森林組合	事業者	会長	
横手市森林組合	事業者		
雄勝広域森林組合	事業者		
秋田県	事業者		
秋田県森林組合連合会	普及・推進		
秋田県林業協会	普及・推進		
秋田木育プロジェクト (秋田市)	製品開発		県内の有志企業等が集い、「木育」から 独自・独創的な物づくりを行っている。
グリーンプラス株式会社 (東京都)	共同事業者	事務局	J-VER 等の環境クレジットの 総合開発・企画提案を行う。
カーボンフリーコンサルテ ィング株式会社 (横浜市)	プロバイダー		J-VER 等の環境クレジットの売り 手・買い手の仲介、企画提案を行う。
合計 14 団体			

（写真）、来場者に目立つように工夫しました。その結果、多くの方をブースに引き込むことができました。

今回のマッチングイベントで契約までは至らなかったものの、熱心に話を聞いてくれる来場者も多

く、購入予備軍として大切にしていきたいと考えています。

3月には東京で同イベントが開催されますので、会員が一丸となって秋田県産クレジットをPRすることとしています。



ネットワーク協議会（1回目）



◆ マッチングイベント（名古屋）



2 今後の取り組み

ネットワークの今後の取り組みについては、ポスターの作成及びホームページの開設によりネットワークの周知を図るとともに、ネットワーク独自の商音開発（クレジットの詰め合わせセットなど）も検討していく必要があります。

また、地産地消という点では、地元企業にも積極的に働きかけていくことも必要と考えています。